

組織目標評価報告書 (平成29年度)

部局名:

薬学部

部局長名:

檜垣和孝

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"> 教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について <ul style="list-style-type: none"> 教員の教授法の向上を目指し、授業撮像データを基に授業参観を励行し、全教員のピアレビューを目指す。教員のインセンティブとして、ベストティーチャー制度の充実化をはかる。 教育方法・内容について <ul style="list-style-type: none"> 学生の予復習および欠席時の補充講義として有意義な授業の撮像データを更に増加させる。 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について <ul style="list-style-type: none"> 大学院入試試験(4年制)および薬剤師国家試験(6年制)の合格率向上に関する取り組みについて検討を開始する。 学生支援について <ul style="list-style-type: none"> 各種サポートが必要と思われる学生(病氣、障害、不登校など)に対して、担当教員を選定しフォローすることで、学生支援体制を強化する。 国際共同による教育の状況について <ul style="list-style-type: none"> 成均館大学(韓国)への短期派遣プログラムを新たに正規授業科目(2単位)として開講し、薬学部のグローバル人材育成コース「グローバルスタディ2」の対応科目とする。 台北医学大学(台湾)への短期派遣プログラムの開設に向け、協議を進める。 ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)での研修と現地の日本の製薬企業でのインターンシップを組み合わせた短期派遣プログラムの開発について協議を進める。 アジアの薬系大学との新たな連携構築に向け、情報収集ならびに協議を進める。 外国人留学生の受入状況について <ul style="list-style-type: none"> 薬学部で実施する短期間の外国人留学生の受入れプログラムを対象に薬学部の外国人短期研修生受入プログラムとしての修了証の発行をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について <ul style="list-style-type: none"> 教員の教授法の向上を目指し、授業撮像データを基に授業参観を励行し、10名の教員から同僚評価書の提出があった。教員のインセンティブとして、各学年の前期後期のベストティーチャーを発表した。 教育方法・内容について <ul style="list-style-type: none"> 学生の予復習および欠席時の補充講義として有意義な授業の撮像データを更に増加させ、29年度は、総科目数49科目、総授業数402講の撮像データを学生にネット配信によって供給できた。また、平成29年度の撮像データページの総アクセス数は、前年度から倍増し、約403,020ヒット数になった。 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について <ul style="list-style-type: none"> 薬剤師国家試験(6年制)の合格率向上に関する取り組みについて、卒論発表および卒論提出を前年度より3週間早めることで、試験対策準備期間を増加させた(合格者発表は3月27日)。 学生支援について <ul style="list-style-type: none"> 各種サポートが必要と思われる学生(病氣、障害、不登校など)を13名ピックアップした。対象学生には学生総合支援委員会の委員を担当教員として選定し、担任を加えた複数教員でのフォローアップ体制を確立した。 国際共同による教育の状況について <ul style="list-style-type: none"> 成均館大学(韓国)への短期派遣プログラムを新たに正規授業科目(2単位)「グローバルスタディ2」対応科目として開講し、5名が参加し、実施した。 台北医学大学(台湾)への短期派遣プログラムの開設に向けた協議を開始した。 ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)での研修と現地の日本の製薬企業の見学を組み込んだ医療系キャンパス合同での短期派遣プログラムの開発について協議を開始し、H30プログラムとしてJASSOに申請した。 アジアの薬系大学との新たな連携構築の一環として、薬学系が中心となってサン・カルロス大学(フィリピン)との大学間協定を締結した。 外国人留学生の受入状況について <ul style="list-style-type: none"> 薬学部で実施したキャンパスアジア事業のナノ・バイオコース(短期)受入プログラムに参加した成均館大学薬学学校(韓国)の学部学生4名に薬学部の外国人短期研修生受入プログラムの修了証の発行した。
①-2 全学の組織目標との関連	①-2 大学全体への貢献
<ul style="list-style-type: none"> 国際共同による教育の状況について <ul style="list-style-type: none"> 何れも大学として定める目標に掲げる「学生派遣・留学生受入れの既存のプログラムの見直しや部局の特色を活かした新規プログラムの開発」に向けた目標である。 アジアの薬系大学との新たな連携構築は、社会貢献・国際担当理事が掲げる目標②に向けた連携プラットフォームの構築に向けた目標である。 外国人留学生の受入状況について <ul style="list-style-type: none"> 大学として定める目標に掲げる留学生受入れの「数値目標の達成」に向けた目標である。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際共同による教育の状況について / 外国人留学生の受入状況について <ul style="list-style-type: none"> 薬学部が中心となってサン・カルロス大学(フィリピン)との大学間協定を締結したが、医療系での広範な交流が期待できる。 SGUIにも関連する取組として、5名の学部学生を薬学部プログラムのもとで海外派遣(短期)した。 SGUIにも関連する取組として、4名の外国人(学部学生)に対し薬学部主体の受入プログラム(短期)を実施した。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> 国際共同による教育の状況について / 外国人留学生の受入状況について <ul style="list-style-type: none"> 薬学部が中心となってサン・カルロス大学(フィリピン)との大学間協定を締結した。 5名の海外派遣(短期)を実施した。 6名の海外からの受入プログラム(短期)を実施した。
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>「大学院医薬学総合研究科 薬学系」に記載</p>	
②-2 全学の組織目標との関連	②-2 大学全体への貢献
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との連携、社会貢献について <ul style="list-style-type: none"> 一般社会人、薬剤師、高校生等を対象とした公開講座、公開講演会等の実施により、薬学および関連領域の科学の進歩について広く紹介する。 国際交流・協力について <ul style="list-style-type: none"> 韓国・成均館大学をはじめとしたアジア各地の有力大学・研究機関等との持続的な連携・交流を進める。 また、インド拠点での活動を継続的に展開する。 その他 <ul style="list-style-type: none"> 地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育の実施を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との連携、社会貢献について <ul style="list-style-type: none"> 薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座、高校生及び一般を対象とした公開講演会を実施した。 医歯薬学総合研究科で実施した、岡山健康講座2017において一般市民を対象とした公開講演を行った。 国際交流・協力について <ul style="list-style-type: none"> 成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)およびサン・カルロス大学(フィリピン)なおのアジア各地の有力大学との持続的な連携・交流の実施あるいは基盤作りができた。 その他 <ul style="list-style-type: none"> スーパーグローバルホームカミングデーにおいて、薬用植物園の一般公開を行うとともに薬学部の海外連携について紹介を行った。
③-2 全学の組織目標との関連	③-2 大学全体への貢献
<ul style="list-style-type: none"> 一般社会人、薬剤師、高校生等を対象とした公開講座や地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育の実施は、平成29年度岡山大学組織目標⑤ 実践型社会連携教育の推進に貢献するとともに、社会貢献・国際担当理事が掲げる目標 ① おかやぶ地域発展協働体等を通じた積極的な事業展開にも寄与するものである。 また、アジア各地の有力大学・研究機関等との持続的な連携・交流は、平成29年度岡山大学組織目標④ 全学部の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成に寄与するものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生を対象とした公開講演会により本学の研究教育方針にマッチする優秀な学生の募集に貢献した。 スーパーグローバルホームカミングデーにおいて、薬学部の海外連携について紹介を行うことで本学のSGUへの取組について認知度をあげることに貢献した。 公開講座、ホームカミングデーにおける薬用植物園の一般公開を通じて、岡山大学としての地域社会貢献に寄与した。 薬学部が中心となってサン・カルロス大学(フィリピン)との大学間協定を締結した。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 公開講演会等の実施状況 地域貢献・国際貢献への協力の状況 <ul style="list-style-type: none"> アジア各地の有力大学・研究機関等への連携推進のための教員の派遣・視察件数 / 延べ日数 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講演会等の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座には71名、高校生及び一般を対象とした公開講演会には73名の参加者を得た。 医歯薬学総合研究科岡山健康講座2017における公開講演では、116名の参加者を得た。 地域貢献・国際貢献への協力の状況 <ul style="list-style-type: none"> アジア各地の有力大学・研究機関等への連携推進のための教員の派遣・視察件数は、延べ43日である。

④管理運営領域

<p>④-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部局組織の活性化について 組織を活性化し、かつ継続的に適切な部局運営を行うために、主要な委員会等の委員として、若手教員、新任教員等を適切に配置することなどにより目指していく。 ・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人数員比率・次世代育成支援等)について 本学部は、女性教員の割合は、比較的高い方だが、引き続き、女性教員の採用、昇進等の可能性について検討していく。 ・効率的・戦略的な予算配分・執行について 省エネ意識を喚起するなどにより経費節減をはかるとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を目指す。 ・安全衛生に対する配慮について 適切な管理活動計画を立案し、それに基づき、適正な安全衛生活動を推進していく。 ・法令遵守の徹底について 情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関し、継続的に、法令遵守について啓発すると共に、講習、webシステム等により、確認、周知をはかる。 ・その他 教育に関し、60分4学期制に適切に対応し、より確かな教育実績を上げるべく、努力していく。 国際交流に関して、引き続き、成均館大学、台北医科大学、ミャンマーFDA等との交流を深め、実質的な学生交流を目指していく。 	<p>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○部局組織の活性化について <ul style="list-style-type: none"> ・適切な部局運営を行うために、主要な委員会の委員構成を熟慮し、継続的に、効率的・且つ堅実的な部局運営が行えるように体制作りを行った。 ○ダイバーシティの推進(女性教員・外国人数員比率・次世代育成支援等) ・現在の人員及び将来の人事異動も視野にいれ、女性教員、外国人数員の登用について検討した。 ○効率的・戦略的な予算配分・執行について ・全教職員に、省エネ意識を喚起することにより経費の節減を図った。また、各委員会にかかる経費についても、計画とは別に、詳細な検討をしながら進めることで、効率的に執行した。 ○安全衛生に対する配慮について ・年度当初にたてた活動計画に基づき、適正な安全衛生活動を推進した。 ○法令遵守の徹底について ・情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等について、講習、webシステム等により、法令遵守についての再教育、啓発を行った。 ○その他 ・60分4学期制に対応し、確実かつ良質な教育の実施に努めた。 ・国際交流については、成均館大学とのダブルディグリー制度の実質化を筆頭に、ミャンマーFDAの職員の博士後期課程学生としての受け入れなど、着実に進めている。
<p>④-2 全学の組織目標との関連</p> <p>国際交流の活性化、より効果的な予算執行、法令遵守、安全衛生に対する取組等、全学の組織目標に合致したものと考える。</p>	<p>④-2 大学全体への貢献</p> <p>国際交流の活性化、効果的な予算執行、法令遵守、安全衛生に対する取組、いずれも大学の組織目標に合致したものであり、本年度の執行状況は、十分なものであると考えられる。</p>
<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>法令遵守の徹底と安全衛生の推進(コンプライアンス・安全衛生に係る研修を全教職員の受講を目指す。)</p>	<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>e-ラーニング、及び担当理事によるコンプライアンス研修会にて、全教員について、公的研究費等の不正防止に係る教育を行った。情報セキュリティに関してもe-ラーニングによる教育を実施の徹底を図った。</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>教育、研究、社会貢献領域、いずれも当初目標を良好に達成したものと評価している。来年度は、29年度に得られた成果を踏まえて、教育領域では、博士課程、博士後期課程への進学率の向上を目指した取り組みを模索し、かつより質の高い大学院教育を目指す。研究面では、大型プロジェクト、大型研究費獲得を目指す。社会貢献領域においては、引き続き公開講座を実施し、薬学に関する最新情報を一般社会人、薬剤師に提供するとともに、アジアの有力大学を中心に、国際交流を深めるようつとめていく。</p>	